

「我々の信念は変わらない」：米は反政府軍が MH17 を落としたと主張、オランダ報告を無視

【訳者注】問題は、日米安保条約ゆえに、“アメリカの信念”を我々も共有しなければならないのか、ということである。9・11についても同じ。これを日本政府にも、マスメディアにも聞いてみたい。従僕国たる者の慎みをわきまえるべし、ということか？

RT (Russia Today)

October 14, 2015

<http://on.rt.com/6tud>

15 カ月という長きにわたるオランダ主導の、明確な結論の出ない、誰が BUK 地对空ミサイルを発射したか、または、それが発射された正確な場所についての調査にもかかわらず、アメリカは、MH17 航空機を撃墜したのは、東ウクライナの反政府軍だという“信念”を固守し続けている。

米務省報道官の Mark Toner は、火曜日に行われた、オランダ安全委員会 (DBS) の「重要な調査結果」を歓迎し、記者に対するブリーフィングで、オランダの報告は、マレーシア行きの、ほぼ 300 人の客を乗せた飛行便は、「BUK 地对空ミサイルによって分離派の支配する領域から」撃墜されたというアメリカの説を、「確かなものにした」と言った。

「我々が読まされる、わけのわからないお喋りは、常に決まって、一方では混乱させること、他方では、自分の望む世論を形成するのが狙いで、それはプロパガンダと言った方がよい」と、ロシアの外務省報道官は、モスクワでのメディア・ブリーフィングで言った。

Maria Zarkharova は、MH17 悲劇のほんの 2, 3 日後に、アメリカは大急ぎで、「マレーシア・ボーイング機悲劇の、結果でなく原因」を決めつけて、一般大衆に知らせたことを指摘した。

外務省報道官は、アメリカは、オランダの報告が公表される「ずっと前に」、自分たちの立場を確定していたことを強調した。

信念と調査結果の調整ということは、不幸なことに、「特別、マレーシア・ボーイング機の問題だけでなく、他の問題でも同様に、アメリカでは日常のことになっている」とザハロワは言った。

<https://www.youtube.com/watch?v=71qfs9wl5X8>

火曜日にトナー報道官は、DBS 報告が、誰の責任とも言わず、ミサイルが発射された正確な場所を特定しなかったにもかかわらず、ワシントンは「我々の信念」を貫くものだと確言した。

どうしてそれが「あなた方の説を支持するもの」なのか、説明するように求められると、トナーは同じことを繰り返した――

「それは、MH17 が、東ウクライナの分離主義者の支配する領域から発射された BUK ミサイルによって撃ち落とされたと言っているからだ、そして我々は最初からそう言っている…」

しかし、トナーの声明は、オランダ安全委員会が火曜日に提出した調査報告に矛盾している。報告は正確な発射場所には言及せず、ただ、弾頭が東ウクライナの、ある 320 キロ四方領域以内のどこかから爆発させられた、と言っただけだからである。この報告はまた、その時、その領域が誰によって支配されていたかの推測も避けている。

<https://www.facebook.com/RTvids/videos/1089859661024286/>

専門的な詳細だけに留められたこの調査は、マレーシア航空 MH17 便機は、ある BUK 9 M38 シリーズが、ボーイング 777 のコックピットの左側の上で、爆発したことを確認した。

オランダの調査官はまた、ウクライナ政府が、戦闘地域上空の民間機に対するより大きな危険の認識と、その領空の閉鎖を、怠ったとして非難した。

非難ゲームは、DBS 調査が、衝突の専門的詳細を与えることだけを目指しているにもかかわらず、ワシントンで続いている。一方で、もう一つの調査が「合同調査チーム」(JIT) によって行われている。今年の終わりまでに、この事件の責任者(犯人)が決定されると期待されている。

「彼ら（アメリカ）は衛星写真をもっている——私は持っていると思いますが——決して提出したことがなく、DBS もそれを咎めないのです。ロシア政府は彼らの衛星写真を提出しています。彼ら DBS はそれが役に立つと言いながら、より多くの光を当てるために、それを利用してはいないのです」と、政治アナリスト Daniel Patrick Welch は、RT に話した。

ロシア外務省は、オランダ報告の結果を咎めて、この調査団がロシアにやってきて、ロシア側が墜落の原因追求のために提供している証拠を、調べるように招待したが、「応じなかった」と主張している。

http://twitter.com/RT_com/status/654017319631515648/photo/1

外務省の女性報道官による声明の中で、モスクワは、ロシアのキエフに対する、撃墜時の「軍事航空管制官の記録」を提供するようという呼びかけが、全く通じたことがないと主張している。キエフはまた、この地域の彼ら自身の対空防衛軍の、配備地点についての情報をも、提供していない。

「深刻な疑念がいつまでも残ります。それは、オランダで行われた調査の本当の目的が、果たして、この悲劇の背後の真の理由を確立することだったのか、あらかじめ主張されていた非難を正当化することではなかったのか、ということです」と外務省報道官は言った。

昨年、墜落の直後に、西側メディアは大急ぎでモスクワを犯人に仕立てた。

この墜落の背後に誰がいるのかを確定する公的決論が、まだ出ていないにもかかわらず、主流メディアは、“ロシア製” ミサイルを言い立て続けた。

BUK の製作にあたった Almaz-Antey 社は、MH17 の模型の近くで、2 回の爆発シミュレーションを行って、独自に得た実験結果を一般に公開した。



<https://www.facebook.com/RTvids?fref=nf>

このロシアの兵器製造業者は、このミサイルは（ロシアではすでに廃棄された）古い型の BUK モデル 9 M38 で、ウクライナ（政府）軍の支配下にあった地域から発射されたものと確定できるとし、これによって、オランダ主導の調査の予備段階的結果に異議を唱えている。

「ニューヨーク・タイムズとか、こうしたすべての西側の報道機関は、これを勝利として宣伝していますが、よく注意して見れば、全く正反対です」と、ウェルチは言った。「彼らは、何が起きたか知っているなどと言えたものではない。彼らは、それが BUK によって撃墜されたのは確かだと言っていますが、それがどこから発射されたか確信があるわけではなく、したがって、誰がやったのかも言えないのです。ワシントンが望んでいたのは、こういう“大成功”です。」